

全員参加で緊急対応訓練実施します

毎年行っている「緊急対応訓練」を本年度は、皆さん全員参加で、訓練を8月を目標に計画しています。ご協力よろしくお願ひします。

当日は、構内放送で、訓練開始のアナウンスをしますので、全員シェイクアウトを(右の図を参考にしてください)行ってください。

環境会議では、東日本大震災の教訓をいかすために、本年度の目標に、防災マニュアルの作成を目標のひとつに加えました。議論の中で「もし、誰かがケガをしていたら、その対応は大変難しかったのでは」といった発言がありました。当日の皆さんの行動を聞いてみると、外へ飛び出した人、何もできずに揺れがおさまるのを待っていた人など、対応がまちまちでした。

まず身の安全を確保することが、緊急対応の重要な要素である事が、防災マニュアルを作成する中で明らかになりました。今回の訓練では、第一段階である身の安全を確保するために、机の下に隠れたり、物陰にうずくまる訓練を行います。訓練だから、恥ずかしいからといって、いい加減に行っていると、突然の時には、役にたちません。1分間じっとしててください。

その後、構内放送で集合場所に避難するように指示しますので、あわてず、ゆっくり指定された集合場所に移動をお願いします。移動が完了した後、各部署あるいは各フロア毎に点呼をとり、社長に全員の安否を伝えてください。

組立工場の皆さんは、一旦組立工場の庭先に集まり、全員集合が確認されてから本社工場の集合場所に移動してください。みのりある訓練にしたいと思いますので全員参加をお願いします。

防災マニュアル

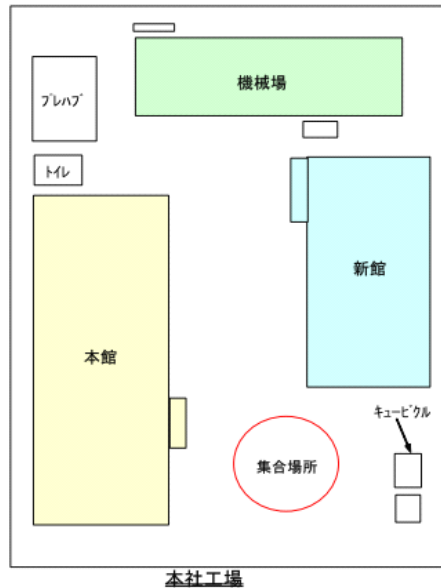
(Disaster prevention manual)



青柳工業株式会社

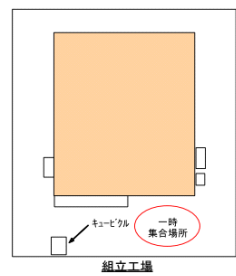
MEI 2014-4110

作成中の「防災マニュアル」表紙



本社工場

シェイクアウト動作



組立工場

環境コラム

「子供のころから自然に親しむことが大切です」

先日の水戸市環境保全会議総会、基調講演で、茨城大学工学部、金利昭教授の「我々にとっての環境の価値と意味を考える」と題した講義を聞いてきました。人間にとって、環境と触れ合うことの大切さを再確認しました。先日、「ほんまでっかTV」というテレビ番組を視聴していると、金教授と同じような話をしていました。幼児期に、自然と触れ合う体験をした子ども達は、しなかった子ども達に比べ、相手を思いやる心が強いとの実験データがあると論じていましたが、普通に考えても、森や林の中で、さまざまな植物や動物の生態を眺めた経験がある子ども達は、ゲームばかりしてきた子ども達より、より感受性が強くなることは、充分理解できます。人間は、さまざまな環境の中から、多くを学んできましたが、いつしかそうした体験が軽視され、より実践的な活動が成長過程の教育に組み込まれてきました。そろそろ見直す時期にきていると思われれます。